

復興状況に関する住民アンケート調査

説明資料

倉 敷 市

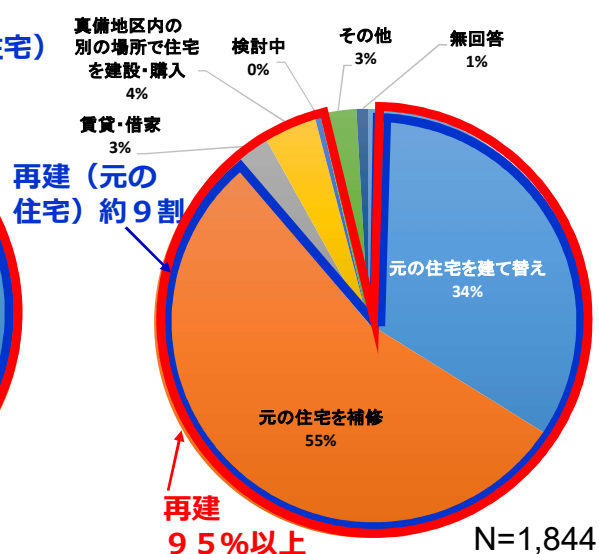
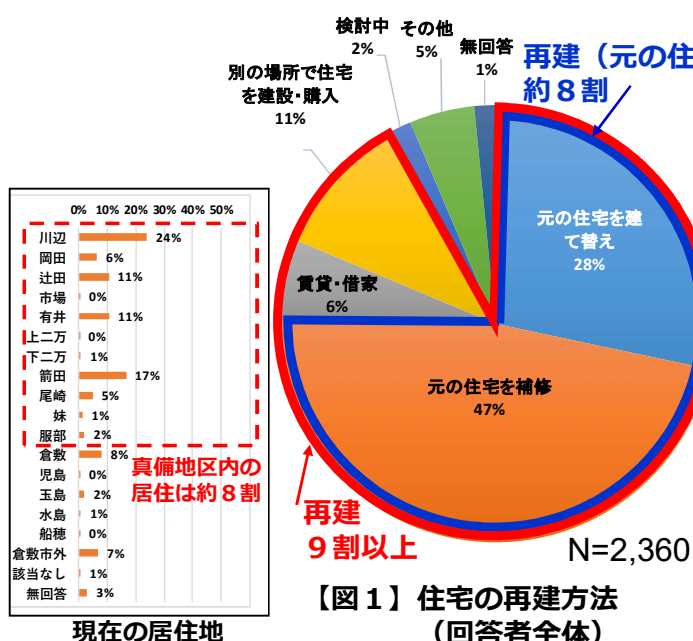
令和4年3月

復興状況に関する住民アンケート調査	
調査方法	住民アンケート
	質問紙による郵送自記入・郵送返却
調査対象	被災世帯（真備地区） 発送数：約 5,700 世帯 回収数： 2,360 世帯（41.6%）【確定値】
調査時期	令和3年11月上旬～12月末日
主な質問内容	住まい・生活の状況／復興に向けた課題／災害への備え／地域のつながり，など

1

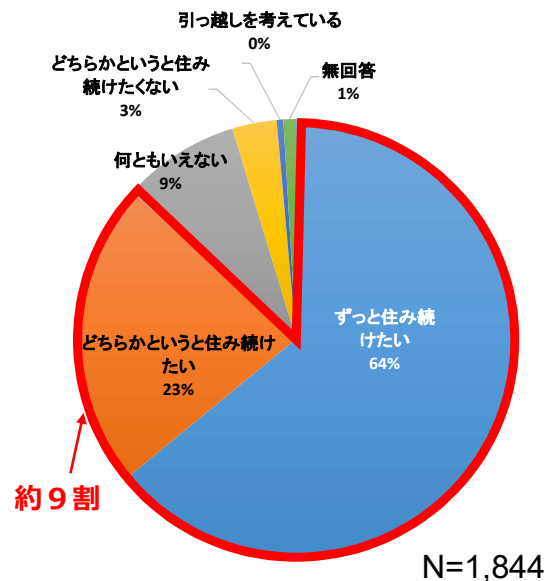
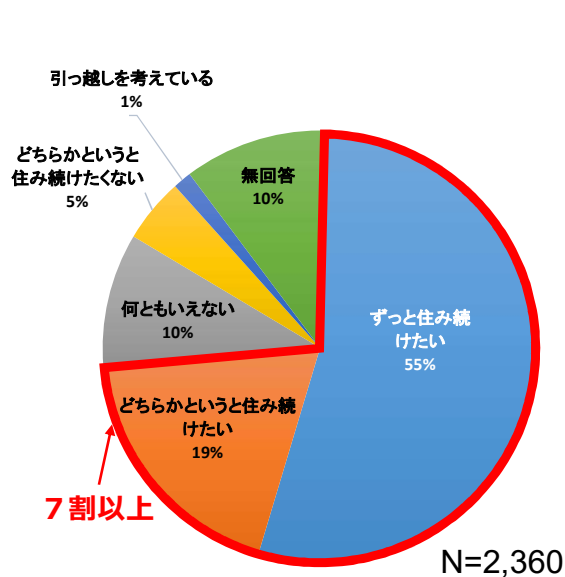
住まい【住宅の再建方法】（問10）

○ 住宅の再建は，9割以上が完了し，再建方法の約8割が元の住宅を建て替え・補修と回答



（参考）被災5か月後に実施した住民アンケート調査では，「8割以上が真備地区で住まいを再建する意向」があった 2

○ 真備地区での今後の居住については、「住み続けたい」と7割以上の世帯が回答



【図3】 今後の真備地区での居住について (回答者全体)

【図4】 今後の真備地区での居住について (回答者のうち、現在、真備地区居住の方)

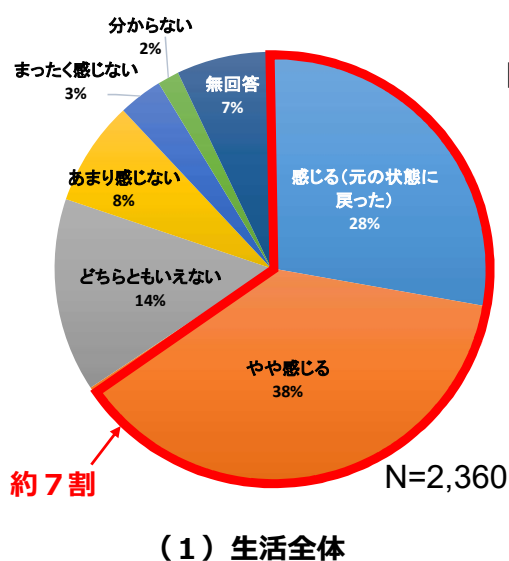
(参考) 倉敷市第7次総合計画

現在住んでいるところが住みやすいと感じている人の割合 : 現状値 57.5% → 目標値 71% (10年後)

3

復興の現状【元の状態への回復感と今後の展望】 (問12・問13)

○ 生活全体が「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている世帯割合は約7割



(1) 生活全体

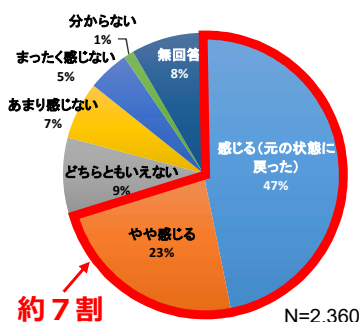
【内 訳】 全11項目での場合

・高い割合

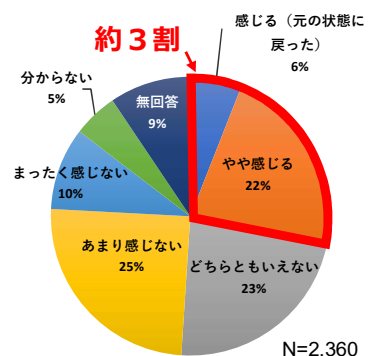
「すまい」「生活」「福祉・医療」「仕事」「教育」

・低い割合

「まちのにぎわい」「将来の生活」「人と地域のつながり」



(2) 「すまい」



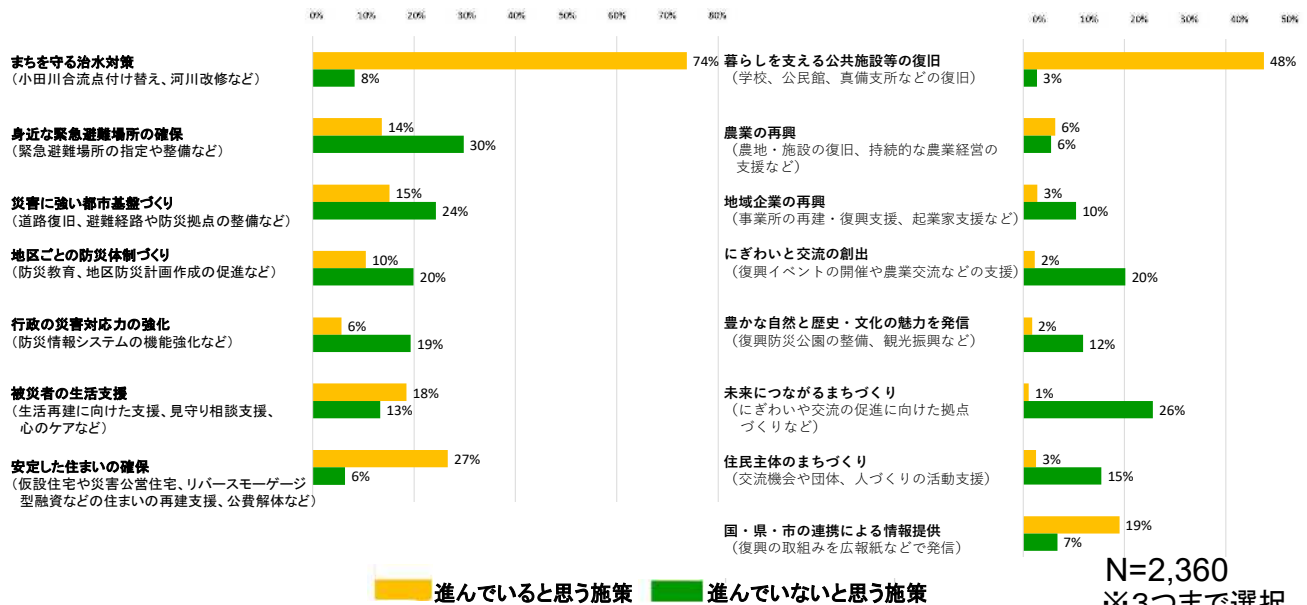
(3) 「まちのにぎわい」

【図5】 世帯の生活全体が「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている割合

4

行政の復興施策【これまでの復興施策の進み方】（問15）

- これまで進んでいると思う施策は、「治水対策」「公共施設の復旧」「安定した住まいの確保」等を選んだ世帯が多い
- これまで進んでいないと思う施策は、「身近な緊急避難場所の確保」「未来につながるまちづくり」「災害に強い都市基盤づくり」等を選んだ世帯が多い

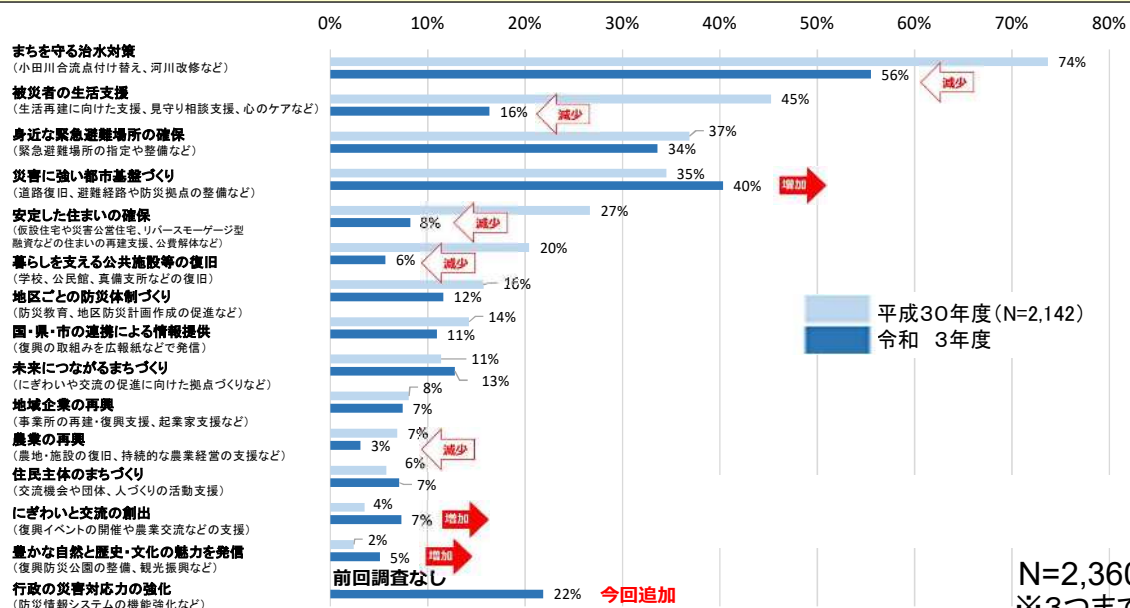


【図6】 これまでに行政が取り組んできた復興施策の進み方について

5

行政の復興施策【これから重視する復興施策】（問16）

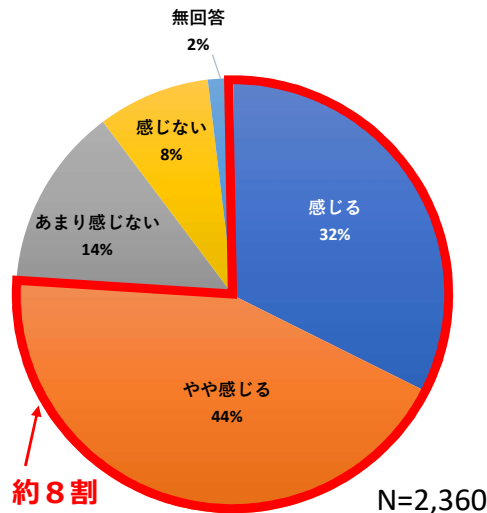
- これから重視する割合が減少した施策は、「被災者の生活支援」「安定した住まいの確保」「まちを守る治水対策」等
- これから重視する割合が増加した施策は、「災害に強い都市基盤づくり」「にぎわいと交流の創出」「行政の災害対応力の強化」等



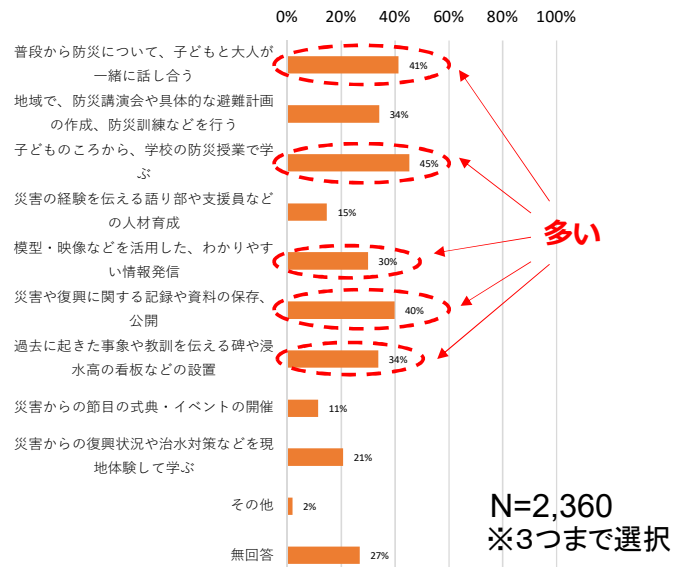
【図7】 今後、行政が取り組む復興施策で重視するもの

6

- 「災害直後と比べて記憶が薄れているように感じる」と、約8割の世帯が回答
- 災害の記憶や教訓を伝えるために必要な取組として「子どものころから学校の防災授業で学ぶ」「普段から防災について子どもと大人が一緒に話し合う」などを選んだ世帯が多い



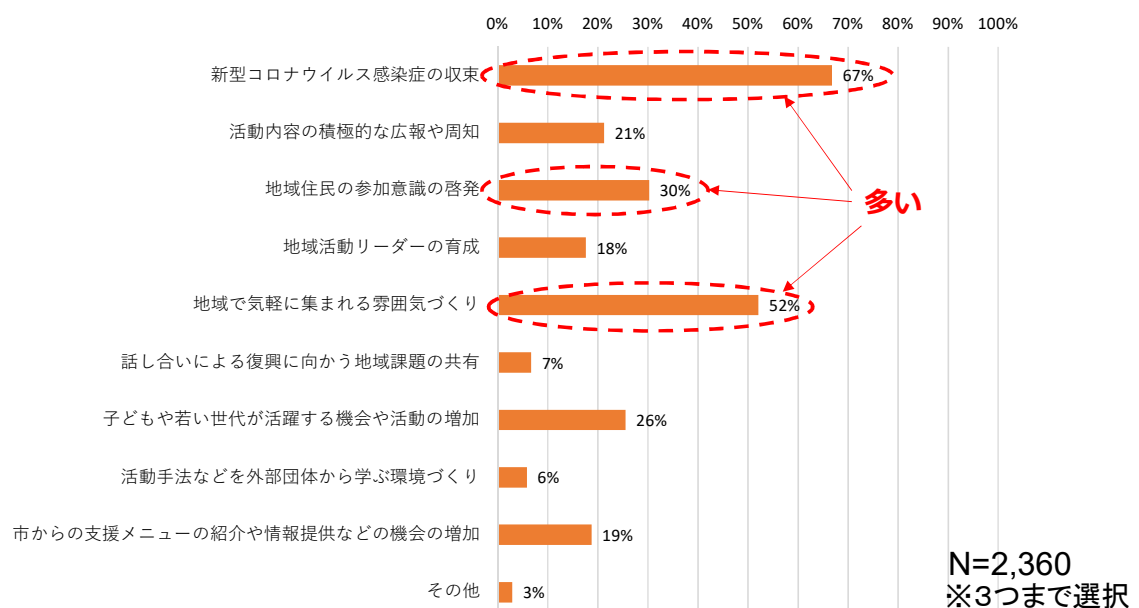
【図8】災害時の記憶の薄れの感じ方



【図9】災害の記憶や教訓を伝えるために必要だと思う取り組み

7

- 町内会・自治会などの地域コミュニティ活動が活性化するために必要なこととして、「新型コロナウイルス感染症の収束」「地域で気軽に集まれる雰囲気づくり」「地域住民の参加意識の啓発」を選んだ世帯が多い



【図10】地域コミュニティ活動が活性化するために必要なこと

8